自己紹介スライド

nakagaki.6910sakka18@icloud.com

愛知県立大学大学院 情報科学研究科 情報システム専攻 神谷幸宏研究室 中垣 太佑

目次

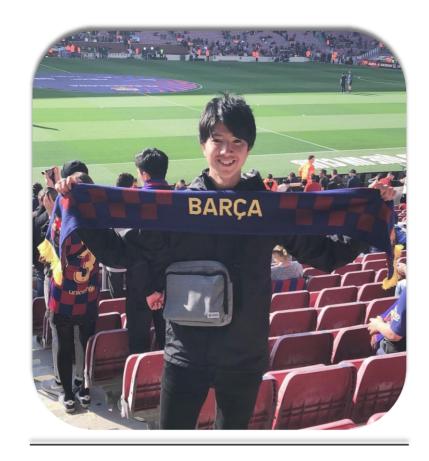
- 自己紹介
- 研究
 - 学部
 - 修士
- サークル・クラブ活動
- 大学発ベンチャーでの活動







自己紹介



中垣 太佑 Daisuke Nakagaki

大学

愛知県立大学 大学院

所属

情報科学研究科情報システム専攻神谷幸宏研

出身

愛知県 豊田市

趣味

サッカー・フットサル、ランニング、旅行、サウナ

活動

サッカーサークル、社会人フットサルクラブ、 大学発ベンチャー、アルバイト





研究

所属

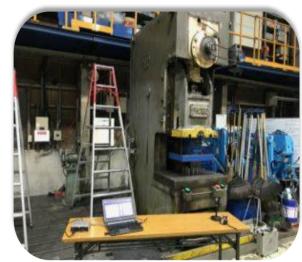
神谷幸宏 研究室 https://sensing-lab.com/

分野

データ解析・信号処理







キーワード

ドップラーセンサ、加速度センサ、 IoT(農業、生体:動物・人間、機械の予知保全、構造物モニタリング)

実績

- 1. 国際会議GCCE にてポスター発表
- 2. 電気学会C部門大会 にて口頭発表
- 3. 計測自動制御学会中部支部教育工学研究会にて口頭発表
- 4. 愛知県立大学情報科学部卒業発表会優秀賞受賞
- 5. SICE SSI2022 にてポスター発表



研究内容 (学部)

テーマ

周波数解析手法ARSの誤差軽減に関する研究

**Accumulation for Real-time Serial-to-parallelconverter

背景

代表的な解析手法を用いた解析では、低い周波数において高い周波数分解能が得られない

短時間フーリエ変換やウェーブレット変換など

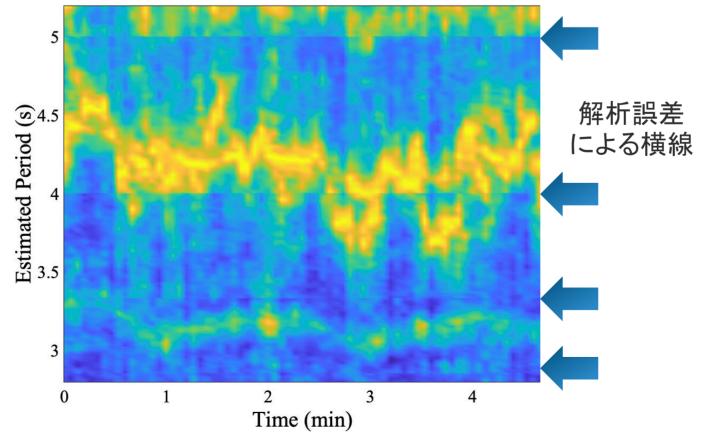
ARSは様々な強みをもつ周期解析手法として提案されているが、解析時に誤差が 生じる課題があり、この誤差によりAI使用時に誤った結果を導く恐れがあった



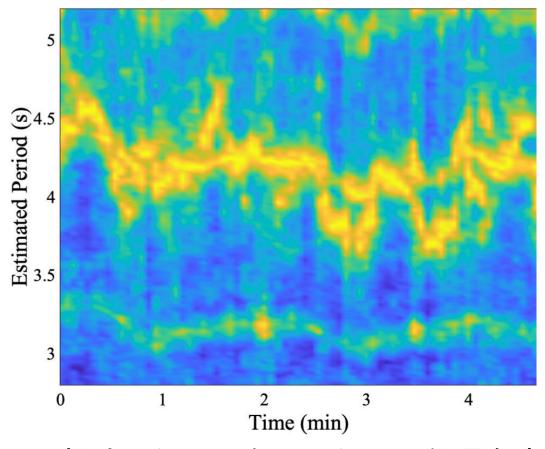
ARSの解析結果をAIに適用可能にすることを目的に、解析誤差の軽減に取り組んだ



非接触呼吸計測



(a) 従来のARSを用いた呼吸信号解析



(b) 提案したARSを用いた呼吸信号解析

研究内容(修士)

テーマ

教師なし学習を用いた機械の異常検知に関する研究

背景

- IoTの普及に伴い、データ収集と設備保全効率のさらなる改善を結びつける、異常・予兆検知のニーズが高まっている
- 人手不足や技能継承の観点から、従来人の手により行われてきた検査の自動化が求められる

特徴

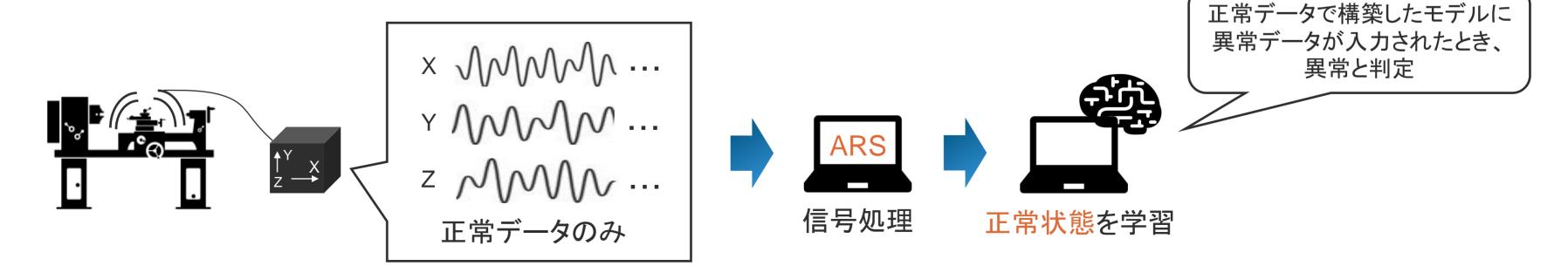
振動の解析に低周波信号に適した解析手法ARSを用いること

→従来の解析手法を用いた場合より、低周波に現れる異常の検知を高い精度で実現できる可能性

応用先

製造やインフラ、医療など幅広い分野に応用できる可能性

→巨大構造物や呼吸·心拍等の信号は**低い周波数に特徴が現れるため**



サークル・クラブ活動



サッカーサークル FORZA

- 2018年4月~
- 副代表:2019年4月~2020年3月



社会人フットサルクラブ Appearance

- 2019年10月~
- メニュー担当:2020年7月~

大学発ベンチャー:Senscom



Senser & Communication

https://senscom.jp/

活動内容

- ・ 機械の振動解析サービス
- 現地でのデータ収集と、そのデータ解析・資料作成を担当

加入背景

- 手法の考案に留まらず、実際に実社会に応用するところまで一貫して行いたい。
- 開発した技術をPRするなど、技術者としてのスキルだけでなくマーケティングスキルを身に付けたい

目標

- 技術的な視点だけでなくビジネス的視点を養い、双方向の知識を有するデジタル人材・ブリッジ人材に成長したい
- IT × O O の事業に多数携わり、多角的な視点で解決策を見出せる人材となりたい



2022年10月1日発行の読売新聞 に掲載していただきました!



Senscom HP



読売新聞

https://www.yomiuri.co.jp/local/chubu/feature/CO056072/20221002-OYTAT50024/

日経新聞

https://www.nikkei.com/article/DGKKZ074261510Y1A720C2L91000/

日刊工業新聞

https://www.nikkan.co.jp/articles/view/603803